

日本医学会だより—No. 4—

1. 日本医学会幹事会

去る1990年9月11日に、第16回幹事会が開催され、主に①第23回総会の準備状況、②日本医師会シンポジウム、③医学用語管理、④認定医制について報告および審議された（2～6の各項目参照）。

なお、席上会長から、総会ありかた委員会の答申に基づいた学術活動の新しい形に関して慎重に準備を開始する段階にきている。また、最近の医学の急速な進歩、社会的要請やそれに対する分科会の種々の活動などに鑑みて、日本医学会としてはその基本的な性格や方針について、この際、深く検討しておく必要があるとの見解が述べられ了承されたのち、別個に委員会等を設置して検討すべきだとの意見が出された。

2. 第23回日本医学会総会の準備状況

明1991年4月5日～7日の3日間、京都において開催。メインテーマは「転換期に立つ医学と医療—創造と調和と信頼—」で、準備は全面的に進行中。

学術プログラムは、演題および演者の全容が決定し、癌、老化、脳、心血管、免疫など17分野についてのテーマ・講演26、医学の進歩シリーズ257、テーマシンポジウム・パネル126などの準備が完了した。

海外招聘者は、利根川進、T. Starazl 博士ら7名、開会講演は福永光司元京都大学人文科学研究所長に、閉会講演は作家の司馬遼太郎氏に決定。

展示については、学術、医用機器、薬品、医療情報、医療サービス、医学史の会場が設定され最新和洋医学書展示即売会も企画されている。

総会の成功は、ひとえに多数の参加にあり、医師会員の登録促進に努力しているが、一方、各分科会会員の登録申込み（第23回日本医学会総合登録室：京都市左京区吉田牛の宮町11—1 TEL 075-752-4747）に期待している。なお、すでに26分科会が認定医の更新条件に、総会出席を取入れている。

3. 日本医学会シンポジウム

第90回シンポジウムは、次のとおり開催される。

主題：動脈硬化'90

—その発生要因・機構・進展—

日時：1990年11月20日（火）10：00～17：00

場所：日本医師会館大講堂

組織委員：京極方久（東北大・病理）

吉田洋二（山梨医大・病理）

北 徹（京大・老年医学）

参加は無料。あらかじめ本会に葉書で申込みのこと。
☆日本医学会シンポジウム記録集：第85回「血管内皮細胞の機能と障害」、第86回「前癌病変」、第87回「スポーツ医学の今日的課題」を希望の方は、本会に葉書で申込みのこと。無料頒布。

4. 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は5名（遠藤 實、京極方久、尾形悦郎、桜井健司、桜井治彦）で、年間企画を行つている。次回開催は12月11日、日本医師会館の予定。

5. 医学用語管理委員会

現在、草間委員長の許で9委員が1991年3月中の医学用語辞典改訂版刊行を目指して、努力中。辞典の名称および装丁の検討段階にある。引き続き、和欧版の初校にとりかかる予定。

6. 認定医制についての三者懇談会

第10回三者懇談会を、8月14日（火）に開催。

主に、1. 医療法の改正と診療科名の問題について、2. 基本的科目について、3. 認定医の公認方法について等が検討された。

日本医学会からは「認定医制度に対する日本医学会の考え方（案）」を提示した。新たな発展が期待される。

7. 医学賞・医学研究助成費選考委員会

第2回医学賞・医学研究助成費選考委員会が、9月11日（火）、午前・午後にわたり開催された。

1990年度日本医師会医学賞は、推薦27件中、基礎・社会部門から、岸本忠三大阪大教授の「インターロイキン6（IL-6）に関する研究」、臨床部門からは、垂井清一郎大阪大教授の「筋肉の酵素異常に関する臨床的ならびに分子生物学的研究」、阿曾佳郎東京大教授の「腎尿管鏡の開発に関する基礎的・臨床的研究」に決定。

1990年度日本医師会医学研究助成費は、推薦65件中、基礎・社会・臨床部門を通じて、次の15名が選考された。

基礎部門：熱海佐保子（山梨医大）「脊髄後角における痛覚制御機構—免疫細胞化学的研究—」、石川栄治（宮崎医大）「生体物質および病因物質の超高感度測定法の開発と臨床応用」、稲垣千代子（関西医大）「脳の記憶機構のクロライドイオン関連シグナルによる解析」、名倉 宏（東北大）「ヒト消化管における免疫機構の神経内分泌による制御機構の研究」、渋谷正史（京大）「がん遺伝子の活性化とシグナル伝達の異常の研究」

社会部門：重田定義（東海大）「脳の発育期における化学物質暴露の高次神経障害の発生機序に関する研